



NARA INSTITUTE of SCIENCE and TECHNOLOGY Social Computing Laboratory

奈良先端科学技術大学院大学 ソーシャル・コンピューティング研究室

YEARBOOK 2025

奈良先端科学技術大学院大学

ソーシャル・コンピューティング研究室

2025 第10年報

(2025/04/01-2026/03/31)



VOICE: 教授・荒牧英治

研究：2つの五カ年プロジェクトの中間審査

研究室設置から10年が経ちました。研究室の2つの大きなプロジェクト、(1) 医療AIの基盤となる辞書リソースを構築するSIPプロジェクトと、(2) AIによる医薬品研究の自動化を目指すCREST「NLP探薬」の両方が3年目の中間レビューを迎えました。

- **半年近い準備が必要なSIP:** SIPプロジェクトのレビューは半年前から資料作成が必要で、10分程度のレビューが複数回実施されました。まず、大量の事前提出資料に驚くとともに、最後のレビューの頃には、同じことを話しすぎて気持ちを抑え込むのが難しいほどの長期間の対応となりました。膨大な資料作成などの準備にあたり、事務の柴田さんや研究員・永井さんをはじめ、SIP担当の皆様にご尽力いただきました。さすがに国家プロジェクトとなると、これほどになるのかという事務作業でした。現在も毎日のように対応が必要ですが、これに対応できる研究室の体制は鉄壁だと思います。
- **一発本番のCREST:** 一方、CRESTでは40分のプレゼンテーションに加え、厳しい質疑が連続し、本番1回ながら大変な緊張感でした。ただ、共同研究者の先生方（東大・河添先生と慶應大・堀先生）にも同席いただけたのは心強く、なんとか終わることができました。厳しい質問はいただいたものの、世界的な研究を目指すという高いレベルから研究を見直すことができる良い機会をいただけたと思います。

この結果、いずれもA判定をいただき、無事に次につなげることができたと考えています。SIPもCRESTも30人以上の研究者が関わる大規模なプロジェクトですが、このようなプロジェクトを動かせること自体が奇跡のようで、責任とやりがいを感じています。スタッフ体制が万全なソーシャル・コンピューティング研究室だからこそ実施できる取り組みです。

同時に、いくつかの課題も見えてきました。SIP事業では社会実装が求められていますが、残念ながら研究室単独ではユーザに広く普及する製品レベルのアプリケーション開発は困難であると実感しました。プロトタイプまでが研究で、製品普及については企業に任せる、この責任分担の境界を今後も意識したいです。CRESTにおいては、世界的プレゼンスの不足も指摘されました。例えば、権威のある国際学会での招待講演などをどんどんすべきだとの声をいただきました。自分から進んで招待講演をすることはできませんが、積極的にアピールをしていきたいと

考えています。実際に、すでにいくつか国際招待講演依頼をいただき、来年度は、少し忙しくなりそうです。

合宿形式の国際ワークショップ：国際的なイベントも実施しました。Shonan Meeting（湘南ミーティング）で、多くの海外のトップ研究者を招いて合宿を行いました。学生時代から存じ上げている先生もお招きでき、3日間、肩肘張らずに議論できたのが夢のような時間でした。一緒にオーガナイズいただいた Pierre 先生、Roland 先生、Dina 先生に感謝です。しかし、Dina 先生が US の情勢変化で来日叶わず、一刻も早い世界の安定を祈っています。

アドバイザー：社会貢献として、山下直美先生が総括する JST さきがけ事業のアドバイザーをはじめ、いくつかの審査・アドバイザー業務を担当し始めました。JST さきがけは、私の成長のターニングポイントにもなった事業であり、支援できることを嬉しく思います。他にも、JST から日本の研究戦略や分野への配分について意見を求められる機会が複数回ありました。いずれにおいても、日本の研究は諸外国に比べて特に劣っているわけではなく、競争原理も上手く機能していることを申し上げました。同時、特に人文知とサイエンスの融合が課題であることもお伝えしました。この分野こそ、ソーシャル・コンピューティング研究室のアイデンティティであり、率先して、人文知と科学の融合を実践していきたいと考えています。

政策貢献：今年からは、いくつか政策提案も行いました。特に、内閣府の次世代個人情報保護法に関わる会議においては、個人情報保護に関して削除するのではなく、置換すべきであるとの基本的原理を提案し、受け入れていただけました。これまでも政府の構成員として仕事をしてきましたが、提案が、実際に反映されることは、大きなやりがいだと感じました。研究を通して、日本の未来を変える決定に関与する場合もある、このことを意識して、今後も研究を進めたいと考えています。

教育：3名の博士学生、4名の修士学生が修了しました。今年度、博士取得者は15名になりました。3月に博士を取得した2人はそれぞれ国立大学と国立研究所のポスドクとしてアカデミアに残りました。近い分野であるため、今後も交流があると思われ、楽しみです。修士の皆さんの就職先も大変立派な企業で驚きました。今回、大学院へ進学する学生がいなかったのは残念に思いますが、一緒に楽しく研究できたことを嬉しく思っています。

研究室を志望する学生の皆さんへ：ソーシャル・コンピューティング研究室は設立10年が経ち、

国内屈指の影響力を持つ研究室に成長したと思います。論文数も非常に多く、MEDINFO Best Paper など国際的な賞も獲得し続けています。国際的にも、湘南会議や NTCIR などの国際会議の主催を通して、日本における重要な拠点として存在感を持っています。このような最先端の研究室でありながら、教員と学生の距離が近く、アットホームな雰囲気も維持しており、最前線かもしれないかもしれませんが、理想的な研究室なのではないかと思っています。ぜひ、入学を検討してください。

VOICE: 准教授・若宮翔子

准教授の若宮です。NAIST に博士研究員として着任してから、あっという間に 10 年が経過しました。着任した 2015 年 12 月当時は学生はおらず（翌年 4 月に一期生 2 名が加わりました）、スタッフも自分を含めて 6 名という体制でした。それを思うと、現在は総勢 50 名が所属する大規模な研究室へと成長しました。その時々でさまざまなことがあります。荒牧先生はじめ研究室メンバーと試行錯誤を重ねつつ、楽しくここまで歩んでくることができました。

今年度は本研究室の修了生である西山先生と久田先生がスタッフとして加わり、研究室の体制がより安定したものとなりました。学生数は約 40 名を維持していますが、学生部屋のデスク数も 40 台であるため、物理的にはほぼ上限に達しています。学生の雰囲気や興味のあるテーマは毎年異なりますが、今年度は春入学の学生数が多かったこともあり、互いに切磋琢磨しながら研究に取り組み、研究室の様々なプロジェクトに貢献してくれました。博士後期課程への進学を希望する学生も多く、今後の発展が楽しみです。個人的には、博士後期課程に在籍する女子学生が一定数いて、みんなが着実に活躍していることを、大変誇らしく感じています（そして、それを少しでも支えられていれば嬉しいです）。

研究に関しては、今年度も LLM を活用したテーマを主流に進めています。SIP-3 では、研究員の永井さんを中心に辞書の作業管理等を継続しています。地味な仕事ではありますが、その成果は、言語資源協会・言語処理学会 2026 年 言語資源賞を受賞するなど評価を受けています。また、研究代表者をしている EU との共同研究（SO-SMART）では、内閣府沖縄総合事務局が推進する沖縄交通・デザインと連携させていただくことができ、博士学生の伊藤くんを中心に研究室で開発した LINE ミニアプリを沖縄県内の高校生に使っていただくなど、広がりを見せています。来年度が最終年度のため、論文や成果物の発表などを積極的にしていくとともに、今後の継続や発展についても検討したいと思っています。その他にも、学生さんの研究や共同研究プロジェクトにも多数参加させていただきました。ACL2025@ウィーン、MedInfo2025@台湾、NII

Shonan Meeting (No. 230 Large Language Models for Health) などにも現地参加させていただき、とても有意義な経験となりました。

その他にいくつか関わった業務や取り組みとして、まず、関西テック・クリエイター・チャレンジ（「AKATSUKI プロジェクト」採択事業）において、徳島大学の西田さん・志賀さんが取り組むテーマの推進をプロジェクトマネージャーとしてサポートさせていただきました。普段学部生との接点がありませんので新鮮な経験となりました。学内業務では、教務部会で学生発表のコロナム B 担当（継続）で発表形式など運用の変更のタイミングでしたが、担当の方々のおかげで無事に終わることができました。これらを通して、NAIST 内の他の研究室の先生方と交流する機会が増えたことも、ありがたく感じています。また、九州大学の牛尼先生にお誘いいただき、メディアテクノロジーシリーズの書籍の執筆にも参加しました。

最後に、今年度も色々な学会運営に関わらせていただき（日本データベース学会 副会長、NTCIR-19 Program Co-Chair, IEICE DE 研幹事, IPSJ DBS 研 運営委員, NLP2026 実行委員アドバイザーなど）、3月から言語処理学会理事も拝命しました。実際のところ、10年前には想像もしていなかったことだらけですが、いろいろなご縁に感謝しながら、自分のペースも大切にして、これからもやっていけたらと思います。

VOICE: 助教・Shaowen Peng

助教として着任して2年目となりました。昨年の年報では、今年は学生指導にもっと力を入れることを目標にしました。結果としては、（標準的な期間より少し遅れたものの）Xinbai (2025/6)と Zac の論文が無事に採択されて、博士課程を修了することができました。これは、主に本人たちの努力の賜物ではありますが、私の指導も少し役に立てていると考えております。

また、初めて共著者として NLP のトップ会議 EMNLP (finding とはいえ)に論文が採択され、本会議にも参加しました。博士の頃によく参加していたデータマイニングの国際会議に比べると、今の時代では、NLP の国際会議のほうが圧倒的に盛り上がっていますね。さらに、3月の言語処理学会では、Cui くんが初めての学会ポスター発表で委員特別賞を受賞しました。これは今後の研究活動にとって大きな励みになるものと期待されます。そのほか、去年採択された若手研究についても、当初のテーマより少々変更があるが、順調に進んでいます。すでに国際ジャーナル一本採択されており、一本投稿する予定です。今年の目標としては、去年に引続き、学生指導に尽力していきたいと思います。特に、影響力のあるトップ国際会議を目指して研究に取り組んで、優れた研究者の育成に努めてまいります。

VOICE: 助教・西山智弘

この研究室で学位を取得し、そのまま助教として着任したため、先生方や研究室メンバーのことをよく知っている分、仕事を始めやすい部分もありました。一方で、立場が学生から教員に変わることによって、見えてくる景色は大きく異なりました。自身の研究や、共同研究の中で自分が担当する範囲に取り組むだけでなく、学生の指導、学務、共同研究の調整など、様々な仕事に向き合う機会が増えました。教員の仕事は、学生から見えていたもののほんの一部に過ぎなかったのだと実感した一年でした。

研究面では、引き続き医療自然言語処理を中心に、患者表現、医療用語の正規化、診療記録からの情報抽出や構造化などに取り組みました。また、SIP や CREST といった研究室の大きなプロジェクトにも継続して関わりました。加えて、Shonan Meeting への参加を通じて、研究室の外の研究者、とりわけ国外の医療 NLP 研究者と集中的に議論する機会を得て、自分の研究をより広い文脈の中で捉え直す貴重な経験となりました。学生時代に訪問・インターンでお世話になった Paris-Saclay 大学や DFKI の先生方・研究者の方々と再会できたことも大きな喜びでした。教育の面では、指導する立場でありながら、学生とのやり取りを通じて私自身も多くを学ばせてもらった一年だったと感じています。

助教としては学ぶべきことばかりですが、自分自身の研究の軸を明確にしつつ、学生が安心して研究に取り組める環境づくりにも貢献していきたいです。自身の研究、学生指導、学務、共同研究などをどう両立していくか、時間のマネジメントは今後の課題だと感じています。変化の速い領域ではありますが、焦ることなく地に足をつけて、着実に取り組んでいきたいと思っています。

VOICE: 特任助教・久田祥平

2025 年度より特任助教として着任し、学生時代から在籍する当研究室で 6 年目の活動を終えました。教員という新たな立場で学生たちと接することで、指導や研究推進における多くの学びを得る一年となりました。自身の専門である Web Science と法領域にとどまらず、対話エージェントや医療領域の LLM 評価といった新領域にも挑戦し、今後の研究に向けた課題が見えてきた一年となりました。次年度はこれらを着実に成果へと繋げていきたいと思っています。

自身の研究や学生指導に加え、研究室全体の活動を支える環境整備にも、博士時代から引き続き取り組んでまいりました。とりわけ今年度は、「RTX PRO 6000 Blackwell」搭載 GPU サー

バーや「NVIDIA DGX Spark」などの最新鋭の計算機資源を導入いただいたことで、最先端の言語モデルを安全かつ大規模に処理できる基盤が整いました。高度な AI 技術を手元で自在に活用できるようになったからこそ、学生たちには既存の枠組みにとらわれず、より実践的で複雑な課題に大胆に切り込んでほしいと期待しています。情報科学を学び始めてから基盤技術は大きく変化しつつありますが、私自身も「AI を始めとした技術が社会や制度に何をもたらすか」という本質的な問いに取り組みつつ、研究を推進していく所存です。



Education

全体ミーティングである Paper Reading (論文紹介) MTG (Peng 先生担当) に加え、

- 医療系プロジェクトの進捗報告 MED-MTG (荒牧先生担当)
- 日本語での進捗報告 MTG in Japanese (若宮先生担当)
- 英語での進捗報告 MTG in English (若宮先生担当)

という3つの個別 MTG を行っています。学生はいずれか1つに参加しています。上記に加え、スタッフ全員が集まるスタッフ MTG、教員+秘書が集まる教員 MTG を行い、研究室運営、教育サポートを検討しています。

2025 年度博士論文：

- Xinbai Li 「Knowledge-Enhanced Specific-Domain Reasoning for Pre-Training Language Models」 (2025/06)
- Zachary S. Pangan 「LLMs as Social Cognitive Engines: Simulation, Prediction, and Augmentation Across Sociotechnical Information Systems」 (2026/03)
- 伊藤 和浩 「Language, Identity, and Collective Well-being: A Computational Perspective」 (2026/03)

2025 年度修士論文：

- 清水 美緒奈 「POI 曖昧性解消のためのストリートビュー画像に基づくテキスト手がかり生成」
- 祖父江 智子 「ソーシャルメディアと幸福感：ソーシャルメディア断ち介入研究」
- 橋本 清斗 「大規模言語モデルを用いた自由記述データの質的分析支援」
- 峯 悠大 「LLM を用いたリハビリテーション自由記述カルテからの FIM 推定」

Member

● リサーチ・スタッフ

- 荒牧英治（教授）
- 若宮翔子（准教授）
- Shaowen Peng（助教）
- 西山 智弘（助教） (2025/4/1-)
- 久田 祥平（特任助教） (2025/4/1-)
- 工藤紀子（博士研究員）
- 藤牧 貴子（博士研究員）
- 永井 宥之（研究員）

● 客員スタッフ

- 矢田峻太郎（客員准教授）
- 相良 かおる（客員准教授）

- Wan Jou (Lavender) She (客員助教)

- リサーチサポート・スタッフ
 - 小林 真希 (技術補佐員) 研究室事務
 - 柴田 裕子 (技術補佐員) 研究室事務
 - 藤井 香子 (技術補佐員) 研究室事務

- データ・スタッフ (非常勤)
 - 中江睦美 (技術補佐員)
 - 鈴木 麻衣子 (技術補佐員)

- 学生
 - Xinbai Li (D3・2022/4-2025/6)
 - 伊藤元太 (D3・2022/10-) (社会人学生)
 - Zachary S. Pangan (D3・2022/10-) (IPGP 国費留学生)
 - 伊藤 和浩 (D3・2023/4-) (NAIST Granite)
 - Samar Hannachi (D3・2023/4-) (国費留学生)
 - Michael Van Supranes (D3・2023/10-) (IPGP 国費留学生)
 - 清水 聖司 (D2・2024/4-) (NAIST Granite AI)
 - Jude Crener Junior Pierre (D2・2024/4-) (国費留学生)
 - 伊藤 健 (D2・2024/4-) (社会人学生)
 - 高 志偉 (D2・2024/4-) (NAIST Granite)
 - 有久 亘 (D2・2024/10-) (社会人学生)
 - Saidah Zahrotul Jannah (D2・2024/10-) (IPGP 国費留学生)
 - Lenard Paulo Velasco Tamayo (D2・2024/10-) (IPGP 国費留学生)
 - 林 純子 (D1・2025/4-) (NAIST Granite AI)
 - 大槻 優佳 (D1・2025/10-) (NAIST Granite AI)
 - Haftamu Kahsay (M2・2023/10-) (国費留学生)
 - 清水 美緒奈 (M2・2024/4-2026/3)
 - 祖父江 智子 (M2・2024/4-2026/3)
 - 橋本 清斗 (M2・2024/4-2026/3)

- 峯 悠大 (M2・2024/4-2026/3)
- Elyanah Aco(M2・2024/10-) (IPGP 国費留学生)
- Mohamad Alnajjar (M2・2024/10-) (国費留学生)
- Sofia Gaiduchenko (M2・2024/10-)
- Jingnan Xiao (M2・2024/10-)
- 遠藤 純音 (M1・2025/4-)
- 倉本 真菜 (M1・2025/4-)
- 上甲 陽菜 (M1・2025/4-2026/2)
- 中野 篤史 (M1・2025/4-)
- 氷見 和 (M1・2025/4-)
- Encheng Cui (M1・2025/4-)
- Jinsha Xu (M1・2025/4-)
- 田代 勇希 (M1・2025/4-)
- Afnan Syukri Anwar Abdullah (M1・2025/10-)
- 戴 寧 (M1・2025/10-)
- Yedong Jin (M1・2025/10-)

- 特別研究学生・インターンシップ学生
 - Axalia Levenchaud (Télécom Paris, France) (2024/10-2025/9)
 - Sara Mathlouthi (MEXT research student) (2025/10-2026/03)
 - Si-Belkacem Yamine Ketir (Télécom SudParis, France) (2025/10-2026/01)
 - Salma El Ouarghi El Maizi (Coburg University of Applied Sciences, Germany) (2025/10-2026/02)
 - Tim Lukas Muehdorfer (Coburg University of Applied Sciences, Germany) (2025/10-2026/03)
 - Sun Lauria Xue (Télécom Paris, France) (2025/10-2026/02)
 - Nontapat Chucharnchai (Ryu) (Kasetsart University, Thailand) (2025/12-2026/03)
 - Mazka Buana Hidayat (Sebelas Maret University, Indonesia) (2025/12-2026/02)

Publication

書籍

1. 小野 直亮, 船津 公人, 浦岡 行治, 松下 智裕, 作村 諭一, 小鍛治 俊也, 中村 哲, 荒牧 英治, 若宮 翔子, 矢田 竣太郎: スッキリ! がってん! データサイエンスの本, 電気書院 (2025/9/7) [[URL](#)]

論文誌

1. Wataru Arihisa, Tomohiro Nishiyama, Shoko Wakamiya, Eiji Aramaki: Comparative Analysis of Japanese Clinical Note Styles Between Physicians and Large Language Models Using Identical Psychiatric Cases: A Quantitative Text Analysis, JMIR Formative Research 2026;10:e85671 (2026/3/27) [[OPEN ACCESS](#)] (IF 2.1)
2. 永井 宥之, 西山 智弘, 大槻 優佳, 藤牧 貴子, 川端 京子, 工藤 紀子, 山崎 由佳, 白石 暖哉, 梶原 智之, 進藤 裕之, 河添 悦昌, 今井 健, 矢田 竣太郎, 若宮 翔子, 荒牧 英治: JMED-DICT: 日本語大規模医療用語辞書の構築, 自然言語処理, 33 巻 1 号 (2026/3/15) [[LINK](#)]
3. Noriyo Yamashiki, Noriko Kudo, Kyoko Kawabata, Takako Fujimaki, Eiji Aramaki, Miki Murata, Shunichiro Ikeda, Hiroko Yoshii, Hisako Yamada, Makoto Naganuma: Health-Related Quality of Life Before and After Sobriety in Combination With an Adjunctive Journaling App in Patients With Alcohol-Related Liver Disease: Prospective Single-Arm Study, JMIR Formative Research 2026;10:e80421 (2026/3/5) [[OPEN ACCESS](#)] (IF 2.1)
4. Kazuhiro Ito, Shoko Wakamiya, Masae Manabe, Yasushi Watanabe, Masataka Nakayama, Yukiko Uchida, Eiji Aramaki: Social harmony at work: A sharedness index linking team atmosphere to individual well-being in a Japanese company, PLOS ONE 20(12): e0336368 (2025/12/29) [[OPEN ACCESS](#)] (IF 2.6)
5. 有久 亘, 西山 智弘, 若宮 翔子, 荒牧 英治: 同一症例を用いた精神科と内科のカルテ記載スタイルの比較分析, 医療情報学 Vol.45 No.5 (2025/12/8) [[LINK](#)]

6. Zachary S. Pangan, Shaowen Peng, Shoko Wakamiya, Eiji Aramaki: Towards Diversified Graph Recommendation via Semantic and Topology Augmentation with LLMs, IEEE Access (2025/11/25) [[OPEN ACCESS](#)]
7. Masami Tsuchiya, Yoshimasa Kawazoe, Kiminori Shimamoto, Tomohisa Seki, Shungo Imai, Hayato Kizaki, Emiko Shinohara, Shuntaro Yada, Shoko Wakamiya, Eiji Aramaki, and Satoko Hori: Elucidating Celecoxib's Preventive Effect in Capecitabine-Induced Hand-Foot Syndrome Using Medical Natural Language Processing, JCO Clinical Cancer Informatics, Vol. 9, e2500096 (2025/8/12) [[OPEN ACCESS](#)] (IF 2.8)
8. Seiji Shimizu, Tomohiro Nishiyama, Hiroyuki Nagai, Shoko Wakamiya, and Eiji Aramaki: Toward Cross-Hospital Deployment of Natural Language Processing Systems: Model Development and Validation of Fine-Tuned Large Language Models for Disease Name Recognition in Japanese, JMIR Medical Informatics 2025;13:e76773 (2025/7/8) [[OPEN ACCESS](#)] (IF 3.8)
9. 荒牧 英治, 西山 智弘, 若宮 翔子: 医療言語処理の新展開, MEDICAL IMAGING TECHNOLOGY (特集論文・招待), 2025年43巻2号 pp. 40-45 (2025/6/21) [[LINK](#)]

国際会議

1. Yuta Yamada, Panote Siriaraya, Christophe Claramunt, Shoko Wakamiya, Teriitutea Quesnot, Eiji Aramaki, Attila Kertesz, Ismail Rakip Karas, Jonas K. H. Fischer, Wan-Jou She: How Many Kilometers Can I Drive Before Shisa-chan Gets Sick? Affective LLM-AR Gamification for Mobility Behavior Change in Okinawa, In Companion Proceedings of the 31st International Conference on Intelligent User Interfaces (IUI '26 Companion) (Poster) pp. 70 - 74 (2026/3/24, Paphos, Cyprus)
2. Kohei Tsuji, Tatsuya Hiraoka, Yuchang Cheng, Eiji Aramaki, Tomoya Iwakura: Investigating Neurons and Heads in Transformer-based LLMs for Typographical Errors, In Proceedings of the 2025 Conference on Empirical Methods in Natural Language Processing (EMNLP2025) (Poster) pp. 6156-6174 (2025/11/7, Suzhou, China)

3. Isao Miyashiro, Mari Kajiwara Saito, Shoko Wakamiya: Evaluation of Access to Cancer Care and Net Survival: A Cohort Study using Osaka Cancer Registry, Japan, The International Association of Cancer Registries (IACR2025) (Poster) (2025/11/6, Izmir, Turkey)
4. Michael Van Supranes, Shaowen Peng, Shoko Wakamiya, Eiji Aramaki: Enhancing Hate Speech Classifiers through a Gradient-assisted Counterfactual Text Generation Strategy, In Findings of the Association for Computational Linguistics: EMNLP 2025 (Poster), pp. 3529-3544 (2025/11/5, Suzhou, China)
5. Mohamad Alnajjar, Ahmad Almoustafa, Tomohiro Nishiyama, Shoko Wakamiya, Eiji Aramaki, Takuya Matsuzaki: ARxHYOKA at TAQEEM2025: Comparative Approaches to Arabic Essay Trait Scoring, In Proceedings of The Third Arabic Natural Language Processing Conference: Shared Tasks, pp. 977-982 (2025/11/5, Online)
6. Masami Tsuchiya, Kiminori Shimamoto, Yoshimasa Kawazoe, Emiko Shinohara, Shuntaro Yada, Shoko Wakamiya, Shungo Imai, Hayato Kizaki, Satoko Hori, and Eiji Aramaki: Natural Language Processing-Based Approach to Detect Common Adverse Events of Anticancer Agents from Unstructured Clinical Notes: A Time-to-Event Analysis, In Proceedings of the 20th World Congress on Medical and Health Informatics (MEDINFO2025) (Oral), Vol. 329, pp. 703-707 (2025/8/13, Taipei, Taiwan) **Best Paper Award**
7. Takeshi Ito, Tomohide Yoshie, Sohei Yoshimura, Nobuyuki Ohara, Shuntaro Yada, Shoko Wakamiya, and Eiji Aramaki: Large Language Models can be a good medical annotator: A case study of drug change detection in Japanese EHRs, In Proceedings of the 20th World Congress on Medical and Health Informatics (MEDINFO2025) (Oral), Vol. 329, pp. 1140-1144 (2025/8/13, Taipei, Taiwan)
8. Tomohiro Nishiyama, Shuntaro Yada, Shoko Wakamiya, Satoko Hori, and Eiji Aramaki: Monitoring Over-The-Counter Drug Use from Japanese User-Generated Data, In Proceedings of the 20th World Congress on Medical and Health Informatics (MEDINFO2025) (Oral), Vol. 329, pp. 733-737 (2025/8/13, Taipei, Taiwan)

9. Yuri Takamatsu, Sayaka Ebara, Hayato Kizaki, Satoshi Watabe, Shungo Imai, Shuntaro Yada, Eiji Aramaki, Osamu Yasumuro, Ryohkan Funakoshi, and Satoko Hori: Development of an Automated Classification System for Medication-Related Incident Factors: A Practical Approach to Enhancing Patient Safety Management, In Proceedings of the 20th World Congress on Medical and Health Informatics (MEDINFO2025) (Oral), Vol. 329, pp. 758-763 (2025/8/13, Taipei, Taiwan)
10. Yuka Otsuki, Shuntaro Yada, Tomohiro Nishiyama, Toshiyuki Sakurai, Masafumi Okada, Noriko Kudo, Kyoko Kawabata, Takako Fujimaki, Hiroyuki Nagai, Shoko Wakamiya, and Eiji Aramaki: Efficient Maintenance of Large-Scale Medical Dictionaries Using Large Language Models: A Case for Biomarkers, In Proceedings of the 20th World Congress on Medical and Health Informatics (MEDINFO2025) (Oral), Vol. 329, pp. 804-808 (2025/8/12, Taipei, Taiwan)
11. Samar Hannachi, Shoko Wakamiya, and Eiji Aramaki: Exploring Trust in AI: Insights from Patients' Relatives in Healthcare, In Proceedings of the 20th World Congress on Medical and Health Informatics (MEDINFO2025) (Poster), Vol. 329, pp. 1936-1937 (2025/8/12, Taipei, Taiwan)
12. Jude Crener Junior Pierre, Gabriel Herman Bernardim Andrade, Shaowen Peng, Shuntaro Yada, Shoko Wakamiya, and Eiji Aramaki: Abbreviation Expansion using only a Single Word as Context, In Proceedings of the 20th World Congress on Medical and Health Informatics (MEDINFO2025) (Poster), Vol. 329, pp. 1814-1815 (2025/8/12, Taipei, Taiwan)
13. Sofia Gaiduchenko, Eiji Aramaki, Seiji Shimizu, Takako Fujimaki, Kyoko Kawabata, Shoko Wakamiya, Mizuki Shimadzu Kato, and Isao Miyashiro: Large Language Model Challenges to Detect Cancer-Related Cognitive Impairment from Patient Short Speech, In Proceedings of the 20th World Congress on Medical and Health Informatics (MEDINFO2025) (Poster), Vol. 329, pp. 1786-1787 (2025/8/12, Taipei, Taiwan)
14. Saidah Zahrotul Jannah, Elyanah Aco, Shaowen Peng, Shoko Wakamiya, and Eiji Aramaki: Multilingual Symptom Detection on Social Media: Enhancing Health-

- related Fact-checking with LLMs, The Eighth Workshop on Fact Extraction and VERification (FEVER) (Poster) (2025/7/31, Vienna, Austria)
15. Seiji Shimizu, Ibrahim Baroud, Lisa Raithel, Shuntaro Yada, Shoko Wakamiya, and Eiji Aramaki: RecordTwin: Towards Creating Safe Synthetic Clinical Corpora, In Findings of the Association for Computational Linguistics: ACL 2025 (Poster) (2025/7/29, Vienna, Austria)
 16. Seiji Shimizu, Shohei Hisada, Yutaka Uno, Shuntaro Yada, Shoko Wakamiya, and Eiji Aramaki: Exploring LLM Annotation for Adaptation of Clinical Information Extraction Models under Data-sharing Restrictions, In Findings of the Association for Computational Linguistics: ACL 2025 (Poster) (2025/7/29, Vienna, Austria)
 17. Koki Horiguchi, Tomoyuki Kajiwara, Takashi Ninomiya, Shoko Wakamiya, and Eiji Aramaki: MultiMSD: A Corpus for Multilingual Medical Text Simplification from Online Medical References, In Findings of the Association for Computational Linguistics: ACL 2025 (Poster) (2025/7/28, Vienna, Austria)
 18. Yuki Tashiro, Yuta Nakamura, and Eiji Aramaki: SOCIOCOM at the NTCIR-18 RadNLP Main task: Zero-Shot LLM Approaches for Lung Cancer Staging, In Proceedings of the 18th NTCIR Conference on Evaluation of Information Access Technologies (NTCIR-18) (Poster) (2024/6/13, Tokyo, Japan)
 19. Yuta Nakamura, Koji Fujimoto, Jonas Kluckert, Michael Krauthammer, Jun Kanzawa, Akira Katayama, Tomohiro Kikuchi, Ryo Kurokawa, Wataru Gono, Yuki Tashiro, Shouhei Hanaoka, Shuntaro Yada, and Eiji Aramaki: NTCIR-18 RadNLP 2024 Overview: Dataset and Solutions for Automated Lung Cancer Staging, In Proceedings of the 18th NTCIR Conference on Evaluation of Information Access Technologies (NTCIR-18) (2024/6/13, Tokyo, Japan)
 20. Lenard Paulo V. Tamayo, Sa'Idah Zahrotul Jannah, Mohamad Alnajjar, Axalia Levenchaud, Shaowen Peng, Shoko Wakamiya, and Eiji Aramaki: NAISTym at the NTCIR-18 MedNLP-CHAT: Classifying Patient-Chatbot Conversations with Objective and Subjective Assessments Using Prompting Techniques, In Proceedings of the 18th NTCIR Conference on Evaluation of Information Access Technologies (NTCIR-18) (Oral) (2024/6/12, Tokyo, Japan)

21. Michael Van Supranes, Martin Augustine Borlongan, Joseph Ryan Lansangan, Genelyn Ma. Sarte, Shaowen Peng, Shoko Wakamiya, and Eiji Aramaki: UPxSocio at NTCIR-18 MedNLP-CHAT Task: Similarity-Based Few-Shot Example Selection for Prompt-Based Detection, In Proceedings of the 18th NTCIR Conference on Evaluation of Information Access Technologies (NTCIR-18) (Poster) (2024/6/12, Tokyo, Japan)
22. Eiji Aramaki, Shoko Wakamiya, Shuntaro Yada, Shohei Hisada, Tomohiro Nishiyama, Lenard Paulo Tamayo, Jingnan Xiao, Axalia Levenchaud, Pierre Zweigenbaum, Christoph Otto, Jerycho Pasniczek, Philippe Thomas, Nathan Pohl, Wiebke Duettmann, Lisa Raithel, and Roland Roller: NTCIR-18 MedNLP-CHAT Determining Medical, Ethical and Legal Risks in Patient-Doctor Conversations: Task Overview, In Proceedings of the 18th NTCIR Conference on Evaluation of Information Access Technologies (NTCIR-18) (2024/6/12, Tokyo, Japan)
23. Chung-Chi Chen, Qingyao Ai, and Shoko Wakamiya: Overview of NTCIR-18, In Proceedings of the 18th NTCIR Conference on Evaluation of Information Access Technologies (NTCIR-18) (2024/6/10, Tokyo, Japan)
24. Peitao Han, Lis Pereira, Fei Cheng, Wan Jou She, and Eiji Aramaki: AMR-RE: Abstract Meaning Representations for Retrieval-Based In-Context Learning in Relation Extraction, In Proceedings of NAACL Student Research Workshop (SRW) 2025 (2025/4/30, Albuquerque, New Mexico)
25. Ryuki Nishioka, Shoko Wakamiya, Nobuyuki Shimizu, Sumio Fujita, and Eiji Aramaki: Do Interpersonal Skills Affect Human-AI Collaboration Performance? A Study with ChatGPT, In Proceedings of the Workshop on Hybrid Automation Experiences (AutomationXP25) (Oral) (2025/4/27, Yokohama, Japan)

国内会議

1. 久村 颯海, 木崎 速人, 安室 修, 柳澤 友希, 小澤 茉祐, 土屋 雅美, 今井 俊吾, 西山 智弘, 矢田 竣太郎, 荒牧 英治, 舟越 亮寛, 堀 里子: 自然言語処理を用いて構築した類似インシデント検索モデルの単施設データを用いた性能評価, 日本薬学会第 146 年会 (2026/3/29, 関西大学 千里山キャンパス) (発表予定)

2. 永井 宥之, 伊藤 和浩, 山崎 由佳, 白石 暖哉, 若宮翔子, 荒牧英治: 人間-LLM 間のインタラクション分析に向けたコーパス構築のための談話行為アノテーション設計, 言語処理学会第 32 回年次大会 (NLP2026) 併設ワークショップ JLR2026 (Oral) (2026/3/13, ライトキューブ宇都宮)
3. 伊藤和浩, 永井宥之, 若宮翔子, 荒牧英治: ココロトーン: 造語がチームを結びつける, 言語処理学会第 32 回年次大会 (NLP2026), Q8-12 (Poster) (2026/3/12, ライトキューブ宇都宮) **委員特別賞**
4. 堀口 航輝, 杉山 誠治, 梶原 智之, 若宮 翔子, 荒牧 英治: JMedWiC: 日本語医療分野の語義同一性判定データセット, 言語処理学会第 32 回年次大会 (NLP2026), Q6-23 (Poster) (2026/3/11, ライトキューブ宇都宮)
5. 倉本真菜, 永井宥之, 山田恵子, 井出博生, 早川雅代, 西山智弘, 若宮翔子, 荒牧英治: 医学研究テキストの「つたわる化」を目指したテキスト書き換え, 言語処理学会第 32 回年次大会 (NLP2026), Q6-7 (Poster) (2026/3/11, ライトキューブ宇都宮)
6. 林 純子, 永井 宥之, 久田 祥平, 倉本 真菜, 若宮 翔子, 荒牧 英治: 読者はどこでつまづく? 生成多肢選択式問題を用いた医学研究データセット, 言語処理学会第 32 回年次大会 (NLP2026), P6-11 (Poster) (2026/3/11, ライトキューブ宇都宮)
7. 氷見和, 清水聖司, 内田大輔, 石川千里, 中川章, 浅山能久, 西山智弘, 若宮翔子, 荒牧英治: 合成データを用いた日本語電子カルテ文書の汎用的構造化, 言語処理学会第 32 回年次大会 (NLP2026), C5-12 (Poster) (2026/3/11, ライトキューブ宇都宮)
8. Encheng Cui, Shaowen Peng, 伊藤 和浩, Jinsha Xu, 久田 祥平, 若宮 翔子, 荒牧 英治: 単一エージェントとマルチエージェントの生成多様性の評価, 言語処理学会第 32 回年次大会 (NLP2026), B5-19 (Poster) (2026/3/11, ライトキューブ宇都宮) **委員特別賞**
9. 田代 勇希, 清水 聖司, 西山 智弘, 若宮 翔子, 荒牧 英治: MedNormJ: 日本語医療テキストにおける病名正規化のための文脈付きデータセットの構築, 言語処理学会第 32 回年次大会 (NLP2026), Q2-12 (Poster) (2026/3/10, ライトキューブ宇都宮)
10. 牧田優太, 土屋雅美, 河添 悦昌, 嶋本 公德, 関 倫久, 柳澤 友希, 今井 俊吾, 木崎 速人, 篠原 恵美子, 矢田 竣太郎, 西山 智弘, 若宮 翔子, 荒牧 英治, 堀 里子: 電子カルテの医療テキストを用いた L 型カルシウムチャネル拮抗薬のオキサリプラチン誘発性末梢神経障害に対する予防効果の検証, 日本臨床腫瘍薬学会学術大会 2026, AF-4 (2026/3/7, 福岡国際会議場) **フレッシュアズ演題 (口頭) 部門 最優秀演題賞**

11. 伊藤和浩, 林純子, 永井宥之, 若宮翔子, 荒牧英治: 人間は LLM エージェントの話し方をまねるか?, 第 5 回計算社会科学学会大会 (CSSJ2026), P2-4 (Poster) (2026/3/3, クリエイト浜松)
12. 遠藤 純音, 林 純子, 久田 祥平, 荒牧 英治, 若宮 翔子: 地域メッシュに基づくツイート分類による地域の記憶の継承, DEIM2026 第 18 回データ工学と情報マネジメントに関するフォーラム (第 24 回日本データベース学会年次大会), 8K-04 (Oral & Demo) (2026/3/2, オンライン+神戸国際会議場・展示場)
13. 祖父江 智子, 林 純子, 伊藤 和浩, 久田 翔平, 若宮 翔子, 荒牧 英治: 利用目的および利用行動を考慮したソーシャルメディア断ちの幸福感への影響の解析, DEIM2026 第 18 回データ工学と情報マネジメントに関するフォーラム (第 24 回日本データベース学会年次大会), 7F-02 (Oral & Poster) (2026/3/2, オンライン+神戸国際会議場・展示場) **学生プレゼンテーション賞**
14. 倉本真菜, 永井宥之, 山田恵子, 井出博生, 早川雅代, 西山智弘, 若宮翔子, 荒牧英治: 医学研究の「つたわる化」を目指したデータセット構築, 人工知能学会合同研究会 2025 (医用人工知能研究会) (Oral) (2025/12/3, 慶應義塾大学日吉キャンパス)
15. 遠藤 純音, 久田 翔平, 若宮 翔子, 荒牧 英治: 大規模言語モデルを用いた旅行体験の可視化と代替経路の生成, Design シンポジウム 2025 (Oral) (2025/12/3, 慶應義塾大学日吉キャンパス)
16. 永井宥之: LLM の時空間メタファー認知, 日本語用論学会第 28 回大会 (2025/11/30, 慶應義塾大学三田キャンパス)
17. 峯 悠大, 西山 智弘, 伊藤 慎英, 池之上 辰義, 長坂 佳馬, 大西 龍貴, 荒牧 英治: LLM を用いたリハビリテーション自由記述カルテからの FIM 推定, 第 45 回医療情報学連合大会 (第 26 回日本医療情報学会学術大会) (Oral) (2025/11/14, アクリエ姫路)
18. 伊藤 健, 大槻 優佳, 吉江 智秀, 吉村 壮平, 尾原 信行, 西山 智弘, 矢田 竣太郎, 若宮 翔子, 荒牧 英治: 大規模言語モデルが辞書を使う: 医学辞書を参照する電子カルテテキストからの情報抽出システムの構築, 第 45 回医療情報学連合大会 (第 26 回日本医療情報学会学術大会) (Oral) (2025/11/13, アクリエ姫路)
19. 橋本 清斗, 西山 智弘, 若宮 翔子, 土田 夏子, 後藤 総太郎, 戸井 雅和, 荒牧 英治: 大規模言語モデルによる医療インシデント・アクシデントレポートの自動分析と実装評価, 第 45 回医療情報学連合大会 (第 26 回日本医療情報学会学術大会) (Oral) (2025/11/13, アクリエ姫路)

20. 清水 美緒奈, 林 純子, 久田 祥平, 若宮 翔子, 荒牧 英治, 大内 啓樹: 場所表現の地理的曖昧性を解消するための質問内容生成, 第 34 回 地理情報システム学会 学術研究発表大会 (Poster) (2025/11/2, 富山大学五福キャンパス)
21. Michael Van Supranes, Shaowen Peng, Shoko Wakamiya, Eiji Aramaki: A Simplified Sampling Strategy for Controlled Text Generation Using Energy-Based Scoring, 16th National Convention on Statistics (Oral) (2025/10/2, Manila, Philippines)
22. 田代 勇希, 清水 聖司, 久田 祥平, 西山 智弘, 若宮翔子, 荒牧英治: 日本語医療用語に対する様々な正規化手法の評価, 情報処理学会 第 265 回自然言語処理研究発表会 (Oral) (2025/9/22, 鹿児島大学)
23. 氷見 和, 清水 聖司, 西山 智弘, 久田 祥平, 永井 宥之, 若宮 翔子, 荒牧 英治: 医師ごとの書き方を模倣した要約生成の性能評価, 情報処理学会 第 265 回自然言語処理研究発表会 (Oral) (2025/9/22, 鹿児島大学)
24. 山崎 由佳, 永井 宥之, 西山 智弘, 若宮翔子, 荒牧英治: 大規模言語モデルを用いた医療用語のつたわりやすさの定量化, 情報処理学会 第 265 回自然言語処理研究発表会 (Oral) (2025/9/22, 鹿児島大学)
25. 中野 篤史, 若宮 翔子, 久田 祥平, 藤田 澄男, 清水 伸幸, 荒牧 英治: 疾患に関する質問から AI への信頼感を推定する, 第 20 回 YANS シンポジウム, S5-P43 (Poster) (2025/9/19, アクトシティ浜松)
26. 林 純子, 永井 宥之, 倉本 真菜, 若宮 翔子, 荒牧 英治: 自動生成された設問を用いた多様なペルソナのテキスト理解度評価, 第 20 回 YANS シンポジウム, S5-P35 (Poster) (2025/9/19, アクトシティ浜松)
27. 矢田峻太郎, 菅原朔, 木崎速人, 西山智弘: 闘病記ブログの感情要因イベントを LLM で抽出する試み, 第 20 回 YANS シンポジウム, S5-P14 (Poster) (2025/9/19, アクトシティ浜松)
28. 上甲陽菜, 久田祥平, 伊藤和浩, 若宮翔子, 荒牧英治: コロナ禍で「赤の他人」への怒りは増幅したか? —LLM による自由記述からの人物関係推定による社会分析—, 第 20 回 YANS シンポジウム, S3-P47 (Poster) (2025/9/18, アクトシティ浜松)
29. 氷見 和, 清水 聖司, 西山 智弘, 久田 祥平, 永井 宥之, 若宮 翔子, 荒牧 英治: 医師個人に向けたパーソナライズド文書生成の評価, 第 20 回 YANS シンポジウム, S3-P31 (Poster) (2025/9/18, アクトシティ浜松)

30. 橋本 清斗, 工藤 紀子, 若宮 翔子, 江本 駿, 西村 由希子, 荒牧 英治: 自由記述テキストの主題抽出と意味的階層化による質的研究の支援, 第 20 回 YANS シンポジウム, S3-P24 (Poster) (2025/9/18, アクトシティ浜松)
31. 田代 勇希, 清水 聖司, 久田 祥平, 西山 智弘, 若宮翔子, 荒牧英治: 医療用語正規化における精度と時間の実用的評価, 第 20 回 YANS シンポジウム, S3-P19 (Poster) (2025/9/18, アクトシティ浜松)
32. 倉本真菜, 永井宥之, 山田恵子, 井出博生, 西山智弘, 若宮翔子, 荒牧英治: わかりやすく伝わりやすい医学研究テキストへの書き換えをめざして, 第 20 回 YANS シンポジウム, S1-P14 (Poster) (2025/9/18, アクトシティ浜松)
33. 遠藤純音, 久田祥平, 若宮翔子, 荒牧英治: 旅行記テキストからの訪問地系列と感情極性の抽出に基づく可視化分析, 第 20 回 YANS シンポジウム, S1-P06 (Poster) (2025/9/18, アクトシティ浜松)
34. 永井 宥之: LLM 間のコミュニケーションは意味拡張を促進するか—用法基盤モデルの仮説検証—, 日本認知言語学会第 26 回全国大会 (2025/8/29, 早稲田大学)
35. 大野由紀子, 青森達, 清宮啓介, 西山智弘, 奥田りりか, 疋田夕真, 河添仁, 望月眞弓, 荒牧英治, 大谷壽一: 自然言語処理技術を用いたバンコマイシン塩酸塩による有害事象の症例検出, 第 27 回日本医薬品情報学会総会・学術大会, O-06 (Oral) (2025/7/5, 広島大学霞キャンパス) **優秀演題賞**
36. 伊藤 健, 吉江 智秀, 吉村 壮平, 尾原 信行, 矢田 竣太郎, 若宮 翔子, 荒牧 英治: 大規模言語モデルによる日本語電子カルテの治療中止理由分類, 2025 年度 人工知能学会全国大会 (第 39 回), 4A1-GS-10-02 (Oral) (2025/5/30, 大阪国際会議場) **全国大会優秀賞**
37. 祖父江智子, 林純子, 伊藤和浩, 若宮翔子, 荒牧英治: ソーシャルメディア利用が幸福感に及ぼす影響の調査, 2025 年度 人工知能学会全国大会 (第 39 回), 3I1-GS-11-02 (Oral) (2025/5/29, 大阪国際会議場)
38. 梶原 麻里, 若宮 翔子, 宮代 勲: 大阪府におけるがん医療へのアクセスと外科医療の均てん化の検討, 第 125 回日本外科学会定期学術集会, PS-054-8 (Poster) (2025/4/10, 仙台国際センター)

解説・総説

1. Chung-Chi Chen, Qingyao Ai, Shoko Wakamiya, Makoto P. Kato, Yiqun Liu, Charles L. A. Clarke, and Noriko Kando. 2026. Report on the 18th Round of NII Testbeds and Community for Information Access Research (NTCIR-18). SIGIR Forum 59, 2 (December 2025), pp. 1–18 (2026/3/4) [[URL](#)]
2. 荒牧 英治, 若宮 翔子: 医療言語処理の DX, 日本医師会雑誌, 第 154 巻, 第 6 号, pp. 646-647 (2025/9/1) [[URL](#)]
3. 荒牧 英治, 西山 智弘, 久田 祥平, 若宮 翔子: 医療言語処理の最前線, 人工知能, 40 巻, 5 号, pp. 688-693 (2025/9/1) [[URL](#)]

Funding

外部獲得資金 (本年度予算 100,142 千円)

1. 戦略的イノベーション創造プログラム (SIP) 第 3 期「統合型ヘルスケアシステムの構築」: テーマ D-2 「統合型の医学概念・知識連結データベースの構築及び医療文書の自動分析基盤の整備」 (2023-2027, 研究開発責任者: 荒牧 英治) (63,636 千円)
2. JST CREST 「データ駆動・AI 駆動を中心としたデジタルトランスフォーメーションによる生命科学研究の革新 (バイオ DX) 」: 「リアルワールドテキスト処理の深化によるデータ駆動型探査」 (2022-2027, 研究代表者: 荒牧 英治) (16,500 千円)
3. 戦略的国際共同プログラム (SICORP) EIG CONCERT-Japan 「カーボンニュートラルな都市の実現に向けたソリューション」: 「スマート交通のための主体的ソーシャル基盤 (SO-SMART)」 (2024-2026, 研究代表者: 若宮 翔子) (2,050 千円)
4. AMED 研究倫理・社会共創推進プログラム「医学的研究をわかりやすく伝える手引き」を用いた科学コミュニケーション手法の研究開発 (2025-2029, 研究代表者: 山田 恵子 (埼玉県立大学), 研究分担者: 荒牧 英治, 研究協力者: 若宮 翔子) (1,000 千円)
5. 科研費 基盤研究(B)「患者が医療に貢献するための自然言語処理機構の開発」(2024-2026, 研究代表者: 荒牧 英治, 研究分担者: 工藤 紀子) (4,500 千円)
6. 科研費 基盤研究(B)「医療用語のエンティティリンクングに向けた実践的医療用語辞書の開発」(2023-2025, 研究代表者: 河添 悦昌 (東京大学), 研究分担者: 荒牧 英治) (150 千円)
7. 科研費 基盤研究(B)「術中の動画及び音声情報を用いた手術チームパフォーマンスの統合的解明」(2023-2025, 研究代表者: 中島 和江 (大阪大学), 研究分担者: 荒牧 英治・若宮 翔子) (各 50 千円)

8. 科研費 基盤研究(B)「文章中の人物の移動軌跡を実世界の地図上に接地するための基礎研究とその応用」(2022-2025, 研究代表者: 大内 啓樹 (NAIST), 研究分担者: 若宮 翔子) (500 千円)
9. 科研費 基盤研究(C)「AI による個別アドバイス機能を搭載したうつ病予防スマートフォン認知行動療法の開発」(2023-2025, 研究代表者: 豊本 莉恵 (京都大学), 研究分担者: 荒牧 英治) (50 千円)
10. 科研費 基盤研究(C)「ストラクチャーから整備されたがん診療連携拠点病院を長期的アウトカムから評価する」(2021-2025, 研究代表者: 宮代 勲 (大阪国際がんセンター), 研究分担者: 若宮 翔子) (200 千円)
11. 科研費 若手研究「温故知新: 古典的推薦アルゴリズムと最先端 LLM の融合」(2025-2027, 研究代表者: PENG SHAOWEN) (1,200 千円)
12. 2025 年度 AIP チャレンジ (CREST バイオ DX) 「大規模テキストデータで脳卒中を予測する」(2025, 研究代表者: 大槻 優佳) (1,000 千円)
13. 新医療リアルワールドデータ研究機構株式会社「医療テキストの構造化に関する研究」(2024-) (763 千円)
14. 株式会社 NTT ドコモ「Slack 等の IMS を用いた組織・チームの分析」(2023-2025) (1,615 千円)
15. 株式会社ビジョンケア「遺伝子カウンセリング AI 化に関する研究」(2023-) (495 千円)
16. 花王株式会社「女性の QOL 向上に対するエピソードバンクの有用性検証の研究」(2022-) (1,000 千円)
17. 日本電気株式会社「電子カルテデータからの注釈付きコーパスの作成に関する研究」(2021-) (1,153 千円)
18. LINE ヤフー株式会社「学際領域におけるビッグデータとクラウドソーシング活用の研究」(2019-) (1,692 千円)
19. 富士通株式会社「医療特化型生成 AI の実用化研究」(2025-) (2,538 千円)